

## 宇土市公共事業再評価委員会概要録

日 時	令和6年11月15日（金） 13：30～14：50
場 所	市役所2階会議室4
要 件	第2回 宇土市公共事業再評価委員会
出席者	<p>公共事業再評価委員会委員 6名</p> <p>滝川 清、北野 安正、中村 茂、吉川 満璃子、岩村 由紀也、吉野 聰</p> <p>建設部 草野部長</p> <p>土木課 竹下係長、末吉技師</p> <p>企画課 三浦課長、石山係長、森山参事</p>
欠席者	なし
概要	<p>1 開会</p> <p>2 前回会議で求められた質問事項等について説明</p> <p>事業担当課から施工方法、計画選定、大坪川の整備順序、松原樋門の完成時期、災害リスクへの対応方針について説明。</p> <p>（主な質疑・意見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料6別紙2について、「基本高水」という表現は「確率年」という表現とすべき。</li> <li>・大坪川の確率年は5年に1回とされているのは、当時「田園地帯だったから」という理由であるが、では今はどうなのか。このままの確率年で良いのかという問題がある。しかし、計画高を高くするとお金もかかるのが難しい点である。</li> <li>・リスク対応を考える時、対応の羅列ではなく、「災害が起こる前」、「起こっている最中」、「直後」、「時間がたった後」と時間軸で考えるべき。大災害のリスク対応は、災害が起こる前にいかに地域に理解してもらうかが大事。</li> </ul> <p>3 議題</p> <p>(1) 再評価の評価基準について</p> <p>事務局から評価基準の説明。</p> <p>(2) 準用河川船場川改修事業について</p> <p>(3) 準用河川大坪川改修事業について</p> <p>事業担当課から評価結果の説明。</p> <p>（主な質疑・意見等）</p> <p>【準用河川船場川改修事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工法は今後全部コンクリートに変えるのか。</li> <li>→整備済み箇所は除き、今後もコンクリートで行う。船場橋付近は石、フレ</li> </ul>

ツシュくまいの地蔵から上流はコンクリートとなっている。

- ・1年に何m施工できるのか。

→今年度は38m。1億円かけて施工する。

- ・1億円の財源は。

→緊急自然災害防止対策事業債を活用し交付税措置があるため、国の負担が7割、市の負担は3割となる。

- ・個表「13. 事業進捗状況」の「事業費」はどのような金額か。

→事業認可の採択時の総事業費の金額になる。

#### 【準用河川大坪川改修事業】

- ・ボックスカルバートとは何か。

→コンクリートの箱型になっている橋である。

- ・大きさは。

→延長10mくらいである。

・個表については修正なしで「継続」とする。附帯意見として盛り込んでほしいことを協議したい。

- ・「市民が安心して暮らせるように」という意見を盛り込んでほしい。

・あまりにも工事のスピードが遅い。早急に工事を実施していただきたい。

・20年経ってこれだけしか工事が進んでいないのは「中止」と判断すべきであるが、重要性はある。5年確率、30年確率の基準では怖いのに、それが進んでいない。リスクにどう対応するかのビジョンがないと怖い。

・船場川、大坪川にも実施済の区間と未介入の区間がある。優先順位を付けてやっていく必要があるが、優先順位の付け方を考えてほしい。論理的に根拠のある形で今後の進め方を検討していただきたい。

・災害の事前対策として「訓練」をしても、どこが浸かるか知っておかないと現実味がない。浸水マップを地域の人に知ってもらい、一步踏み込んだ訓練を進めてほしい。

次回の会議は令和6年12月18日（水）

次回会議では、委員会意見のとりまとめについて協議を行う。